

安倍外交の課題



川上高司

● 3 ●

かわかみ たかし 1955年熊本県生まれ。拓殖大学海外事情研究所所長。大阪大学博士。国際公共政策。フレッチャースクール外交政策研究所研究員。世界平和研究所研究員。防衛庁防衛研究所主任研究員。北陸大学法学部教授などを経て現職。著書に『米軍の前方展開と日米同盟』(同文館出版)、『アメリカ世界を読む―歴史を作ったオバマ』(創成社)など。

行への出資も表明している。5月19日には世界銀行総裁が2012年の就任後初めてインドネシアを訪問したが、遅き

IBを使いながら沿道諸国への影響力を強めていくと考えられる。

中国は、沿道諸国のインフラに投資するだけではなく、最先端技術への投資も怠っていない。

事実、中国はイスラエル企業への投資を増加させている。特に、IT企業への投資が突出しており、イスラエルでもトップレベルのIT技術と中国マネーが結びつきつつある。オバマ大統領とイスラエルのネタニヤフ首相との冷え切った関係を考えれば、イスラエルと中国がますます接近する可能性は高い。

まさに地球儀を俯瞰するようなマネーの展開である。より具体的に、より現実的で、明確な戦略がそこにはある。

シルクロード基金「AIIB」で影響力強める

中国は14年、「シルクロード基金」の立ち上げを宣言した。400億ドル(約4兆8256億円)の資金をもとに、1つは中国から中央アジア、ロシアを経てヨーロッパへと続く「陸のシルクロード」。もう1つは、東南アジア地域から中東を経てアフリカ、そしてヨーロッパへと続く「海のシルクロード」である。

中国は、沿道諸国が投資マネーを渴望していることを熟知し、その提供で影響力拡大を期待している。

アジアの新しい地域主義を揺るぎないものにしよ」と演説した。今、アジア諸国は「中国マネー」への期待感で沸騰している。

中国は、アジア諸国が投資マネーを渴望していることを熟知し、その提供で影響力拡大を期待している。

この中国の動きと、アジア諸国の歓迎ぶりに戦後のグローバル経済の秩序を握ってきた米国の危機感を抱いた。

中国はAIIBに先立ち、新興5カ国(BRICS)のアラビヤ、ロシア、インド、中国、南アフリカ)が共同設立した国際金融機関「新開発銀行」(AIIB)を意図した発言である。

安倍晋三首相の「地球儀を俯瞰する外交」政策にも、より明確で具体的な戦略が必要



中国はAIIBに先立ち、新興5カ国(BRICS)のアラビヤ、ロシア、インド、中国、南アフリカ)が共同設立した国際金融機関「新開発銀行」(AIIB)を意図した発言である。

中国はAIIBに先立ち、新興5カ国(BRICS)のアラビヤ、ロシア、インド、中国、南アフリカ)が共同設立した国際金融機関「新開発銀行」(AIIB)を意図した発言である。

中国はAIIBに先立ち、新興5カ国(BRICS)のアラビヤ、ロシア、インド、中国、南アフリカ)が共同設立した国際金融機関「新開発銀行」(AIIB)を意図した発言である。

「地球儀を俯瞰する」中国のマネー戦略

安倍晋三首相の「地球儀を俯瞰する外交」政策にも、より明確で具体的な戦略が必要